

# 町連協だより

第 6 号  
 平成12年3月1日  
 ◆発行◆  
 千歳市町内会  
 連絡協議会  
 千歳市総合福祉センター  
 TEL(0123)27-2525  
 ◆印刷◆  
 道央プリント  
 千歳市青葉6丁目1-8  
 TEL(0123)23-5535

## 「明るく、楽しい、ふれあいの ある町内会活動を考える」 平成十一年度町内会役員等 研修会開催される。

平成十一年十月十六日午後一時より総合福祉センター四階にて「明るく、楽しい、ふれあいのある町内会活動を考える」をテーマに町内会役員等研修会が開催されました。昨年度の実績を踏まえて町内会に於ける山積する諸問題を解決するためそれぞれ活発な意見交換が行われました。特に今年度は会場の関係から三分科会構成で実施され、又助言者の出席を得て、行政の意見も聴取する事が出来ました。



に設定し、意見交換が行われました。総合すると災害に対する危機感や町内会全体として充分認識しているが多くの問題を抱えている、防災意識が高まらないのは常時訓練が少ないからだ等の意見が出ま

した。又、助言者として石井渉外、防災課長より、すでに配布済の防災に関する資料説明を含め、行政としての取り組み方を理解してほしいとの助言がありました。

第二分科会の生活環境部会は「より良い環境を築くために」を主テーマにサブテーマにゴミを減らして環境を守ろうと題して研究討議が行われました。まず助言者の早川清



(自主防災づくりをどう進めるか、第1分科会)



(より良い環境づくりを目指して、第2分科会)

想を変えてやる時期に来ている、又対象者に対しての心のこもった呼びかけ、日頃の気

掃部長より市の分別収集の実態、今後の課題について説明があり協議に入りました。その中で資源回収については生ビン、雑ビンの区別がわかりづらいので区別のPRを徹底してほしい、又資源の単価についての質問もあり、討議の結果、我々の小さなゴミ減らし活動もみんなで力を合わせれば環境を守る事につながる、大量生産、大量消費の考えを改める、生活の仕方を変えて行けばいい等の意見が出ました。

第三分科会の福祉部会では「安心して生活できる地域づくりを考える」と題して要援護者への対策、老人クラブとの連携について話し合いが行

われしました。稲穂町内会の廣永会長より福祉委員会の設置までの経過と活動状況の実践発表があり討議に入りました。その中で要援護者等への対策については、一人暮らしとは、要援護者とは何か？それは地域の実態或いはその家族、個人の状態により異なり、一人暮らしに限らないで高齢者の健康、生き甲斐等幅広く町内会で見守るべきであるという意見も出ました。又老人クラブとの連携については、老人の出席率が悪い、町内会との関係は今一度活動面に於て発



(安心して生活できる地域づくりを、第3分科会)

配りが必要であり、多くの老人を輪の中に入れるという全体的な町内会のふれあいムードを高める必要があると言う意見ができました。

以上三分科会による本年度の役員等研修会は熱心な意見交換が昨年にも増して見られ、各町内会が抱える諸問題につ

いて、どの町内会も情報交換の場の必要性を再確認し、建設的意見の収集に改めてこの研修会が大きな意義あるものであったと思います。



## 町内会のご紹介

### ★ふれあいを深める

### 事業の取り組みを★

住吉五丁目町内会

会 長 岡田澄樹

小地域ネットワーク事業に取り組んで十年、町内会活動の基本方針は「住み良く、明るい、温もりのある町内会づくり」のため、向こう三軒両隣のふれあいを一層強め「一人の不幸も見逃さない」を目指し努力を続けています。

少子化や核家族化のこの時代に効果のある事業はと摸索しながら取り組んでいます。ここでその一部を紹介します。

#### (一) ミニ運動会と ジングスカン大会

永年続けて来た盆踊りや、パークゴルフ大会も低調化にあり検討の結果、地元公園を利用しての子供花火大会とゲームを主としたミニ運動会



(幼児から高齢者まで餅つき大会)



(ふれあいサロンでの健康体操)

とジングスカン大会を催したところ、これが狙いどおり幼児から高齢者まで幅広い参加者を得られ夏の一日をふれあいを深める大盛況となり、来年も継続をと考えています。

#### (二) 餅つき大会

当町内会の餅つき大会は、十一月に幼児から高齢者まで幅広い参加を得て、ふれあいの場として最適で毎年続けています。当日は早朝から、子供達と共に薪の燃やし方、杵の下し方、つき上げた餅の形作りまで共同作業で行い、出上がった餅を各地方の味を出し、全員で舌つつみしながら一層のふれあいを強めて初冬の一日を楽しく賑やかに過ごしています。

#### (三) ふれあいサロン月曜会

介護保険制度の施行に伴い、地域で出来る支援活動はと検討し、その一つとして「高齢者が家に閉じこもらないように」と会館を活用して参加を呼びかけ、現在二十名程度が集り、体操、卓球、輪投げ、囲碁将棋やお茶のみ雑談等ふれあいを楽しんでおります。

今後は更にこの集いを広げ、関係団体等のご協力を得ながら、季節や健康状態を考慮した行事を取り入れ、気軽に参加できる活動の向上に努めたいと考えております。

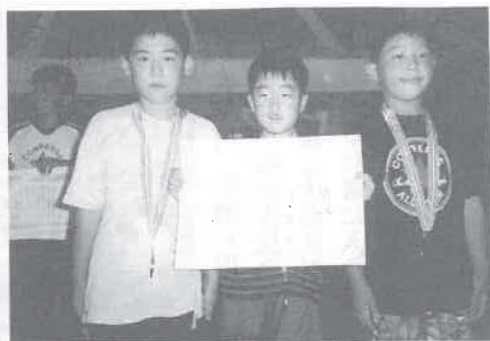
### ★明るく住み良い

### 町内会への決意★

豊里町内会

会 長 内藤一夫

豊里町内会の活動をお知らせ致します。町内会の行事は文化部は盆踊り、衛生部は公園の草刈、町内の清掃年二回、体育部は町内の運動会、鉄道コミセンの体育祭に参加しております。青年部は千歳市の行事に参加し、優秀な成績をおさめ賞状も数多く受賞し、豊里町内随一の活動する部です。例を上げるとバレーボール第



(少年消防クラブ市長表彰)



(老人クラブ、青少年クラブの餅つき大会)

三位、八月六日の子供相撲大会第三位、朝日新聞杯ゲートボール大会準優勝、今年一月七日の千歳市消防出初式に、千歳市長より少年消防クラブが敢闘賞を受賞し、町内の祭典には神輿をかつぎ、十二月には火災予防の夜回り、老人

クラブと青少年部の餅つき大会を実施しました。この二〇〇〇年は豊里町内も、五〇〇世帯となる年です。この一年町内は明るい町内であるように、豊里防災計画を作成しようとして、役員全員が頑張っております。

★一致団結した

町内会活動★

本町自治会

会長 大沼二郎

市民の杜「青葉公園」の入口、清流「千歳川」の南に位置する本町は千歳市発祥の地です。

千歳で最初の土地区画整理事業が実施された昭和二十四年五月に、「本町」の町名が告示され、昭和二十八年十月には会員二二五戸をもって町内会を設立しています。おそらく千歳の町内会第一号ではないでしょうか。

明治以前から千歳の中心で戦前、戦後を通じても本町周辺の千歳川兩岸が千歳の市街地を形成していました。しかし、街は生きています。繁華街も当地区から錦町、清水町へ、そして幸町、千代田町へ、又最近では住宅地も大型店も

郊外へと拡がり、地域の空洞化は顕著です。会員も現在は一〇三世帯で年々減少しています。

しかし、古くから住んでいる方が多いこともあり、おつき合いや町内活動も密度が濃く、節分の豆まき、夏休みラジオ体操、盆踊り、千歳神社祭りの子供神輿、年末の餅つき大会等、子供がメインの行事も青少年指導部のみならず役員総掛かりで実施します。

昭和五十七年に建設した町内会館を拠点に、会員一人一人が地域において仲良く、楽しい毎日が過ごせるように一丸となつて活動しています。

その中から当町内会の特徴的な取り組みである交通指導部の事業を上井昭一副会長の「通学児童の交通安全を願つて」という一文によりご紹介致します。

昭和五十一年三月十八日本町自治会は交通安全祈願祭を兼ね安全宣言式を千歳神社神殿で会員多数が参集し実施しました。この宣言を機に交通指導部を発足させ、全会員が交通安全意識を深めるため、順番割りや春の新入学時期は

毎月十日間、その他の期間は四季を問わず毎週月曜日、千歳小学校の通学路交差点で街頭指導を実施してまいりました。

昭和五十四年四月から部員を増強し、活動を継続しておりますが、町内の全ての通りに交通安全旗の掲揚や防寒衣等の予算要望について、役員や地域住民のご理解ご協力を頂いております。

冬の北風の吹く頃は、寒さが肌にしみることもあります。



(通学路の交通安全指導)

が私たち交通指導部員は、子供達が交通事故に遭わないように、また、ドライバーの方達の交通安全意識が高まるよ

うな交通安全教育に取り組んでおります。毎年、北海道は、交通事故死亡数は全国ワーストワンになっています。誠に



(平成11年5月16日開催)

残念なことです。私たち部員一同は、交通事故の絶滅を願いながら、町内会活動を通じて地域に根強い交通安全運動を実践して参ります。

★大和二丁目

町内会の素顔★

会長 菅原文弥

大和二丁目は、道々支笏湖公園線と一級河川千歳川に挟まれ、地形は三角形で東西に伸び、標高は約十七メートルの比較的平坦な土地にあります。そして千歳川を隔てて青葉公園が隣接しているところ

から公園の木立を通じて、うつり変る四季を身近に感じられる自然環境は極めて優れております。

二丁目町内会は、大和地域全体の発展動向と整合性を保ち、更に地域環境に調和しながら、昭和四十八年三月に設立されました。

発足当初は一戸建ての住宅とその周辺は空地が多く河川用地等があり戸数も少なく、三十世帯構成の町内会で、主な行事は一、二丁目の連合で行つて参りました。

現在は各町内会が独自の活動をしております。最近、中高層等の賃貸マンションが増えております。この結果、町内会活動の態様に変化が生じてきております。それは、総てのマンション入居者とは言葉ませんが、関係機関からの連絡の未伝達、外灯施設の維持負担、ゴミステーションの管理と資源回収への非協力、路上駐車禁止等々、会員が常日頃申し合せていることへの協力が得られないと言った問題を抱えています。また、入居世帯は百二十世帯を数え町内会への加入を促しております

ですが、十数世帯の協力しか得られておりません。こうした問題を町内会独自で解決するには長い時間を必要とします。更に町内会の会員は年々高齢化が進み、その人口割合も高くなっておりまます。そして一人暮らしの老人世帯も僅かながら増える形向にあります。又、近年都市の大型災害が発生しています。一人暮らしの老人世帯に最小限度の「救急セット」を備えていたかどうかと平成十一年度から計画的に実施するように取組んでおります。



(老人研修旅行・京極温泉にて)

★我がまち

ひばりヶ丘町内会★

ひばりヶ丘町内会

会 長 小竹武雄

我がまちひばりヶ丘町内会は、昭和五十年九月世帯数四十数戸で発足し、今年で設立二十五周年を迎えます。現在では世帯数約四百十数戸、人口約一千人を数えるまでになり、千歳市では、比較的大きな町内会に成長しました。現在は、設立二十五周年を祝う記念事業実現に向け、実行委員会を組織して準備を進めております。

さてここで諸先輩が築いて来られたご苦労が知り得ている範囲で紹介します。



(創設当時「会館」として使用したバス)

町内会創立当初は、勿論会館はなく、廃車のバスを初代会長の敷地内に設け、諸行事の会合に役員や会員が利用し、不便ながらも楽しい我が家の如く集り、そして町内会の核として不可欠の施設だったそうです。

又、毎年八月二十日開催の千歳市納涼盆踊り大会の参加のため、踊りの練習や衣裳作り等、楽しい会話を交わしながら、和気あいあいの雰囲気の中、取り進めていた事がつい最近の事のように思い出されると当時の役員から聞かされていきます。

町内会発足当初は畑と山林ばかりで、字名は北信濃ひばりヶ丘団地と呼ばれ中心街から若干離れた所が我がまち「ひばりヶ丘町内会」でありました。今では周辺が市街化区域に編入され、宅地造成が進み住宅街の中心的位置を占めるようになりました。

昭和五十八年、バスの集会場が手狭となり、会員の強い要望と相まって、雨水池を利用して建設したユニークな会館は、一階に和室、台所、トイレを配し、地下に集会場兼

体育館を設け、他に例のない会館が落成しました。かくして私たちの町内会活動の拠点となつて広く活用されております。次に現状について触れてみたいと思います。



(狭いながらも楽しい・・・会館バス内部)

近年はお年寄りを対象とした行事から一般会員、更には子供会を対象とした行事まで年間様々な町内会行事を行っております。例年五十名以上が参加する新年交礼会を始め敬老会、クリスマス会、環境整備事業として町内一円に亘る春・夏・秋の年三回の大掃除、毎月第一日曜日の役員が各戸を回って回収する資源回収の実施、更には親睦を目的とした三世代スポーツ交流と

ジンギスカンパーティ、パークゴルフ同好会、カラオケ同好会等々に参加を呼びかけ積極的に進めております。

最近益々複雑となる社会情勢の中にあつて、地域住民活動の困難さがありますが、会長を核とし役員が一丸となり住み良い地域、明るい町内会を目指して日夜奮闘しています。

諸先輩がこれまで築いてこられた町内会を、今私たち世代が受け継ぎ、そして次の世代へと引き継ぐため、健全で明るい町内会を創り上げていく事が私たちに課せられた最大の課題でないかと思ひます。

編集委員



★編集委員長 小司 統

鳴海二郎 旗山裕之

小竹武雄 水野敏和

高橋英三 蔭 唯男

★事務局 豊満昌治